

研究課題名「地域枠コンソーシアム」構築が、地域枠医師/医学生のキャリアビジョン形成に与える影響に関する研究 に関する情報公開

1. 研究の対象

2009年4月1日～2020年4月1日に、名古屋大学医学部、名古屋市立大学医学部、藤田医科大学医学部、愛知医科大学医学部の地域枠で入学された地域枠医師/医学生

2. 研究目的・方法・研究期間

本研究の目的は、「地域枠コンソーシアム」構築に向けて、地域枠としてのキャリアビジョン形成に係る不安やストレスなどを、地域枠「医師」及び地域枠医学生を対象に、実態調査（量的研究）及び認識調査（質的研究）として行うことです。「地域枠コンソーシアム」とは、愛知県下、愛知医科大学、藤田医科大学、名古屋市立大学、名古屋大学の4大学の地域枠医学生と地域枠「医師」のネットワークのことです。

研究方法として、①量的研究 と ②質的研究があります。

① 量的研究は、この説明書とともに郵送されたアンケート用紙（調査票と質問票）に回答し、切手の貼ってある返信用封筒に入れて回答していただくものです。

アンケートは、無記名ですので、個人を特定できない状態で返信されます。愛知県下4大学の地域枠医学生教育担当者より在学中もしくは卒業時に同意をえた連絡先に、郵送またはメール配信しています。地域枠医学生向けの調査票及び地域枠「医師」向けの調査票、及び質問票が同封されていますので、選択して回答したものを返信用封筒に入れて投函してください。量的研究のみの参加の場合には、同意書の記載は個人が特定されるため不要です。返信されたことによって同意したとみなします。調査票の情報としては、医学部入学年数、性別、年齢（任意）、婚姻歴（任意）、将来の進路（希望する診療科など）、卒業生の場合は卒業年数と所属診療科、地域枠医学生・卒業生に共通する自由記載として「「地域枠として、負担・不安・偏見・差別などを経験した、あるいは感じていること」「理想とする医師像」「「地域枠コンソーシアム」に、期待すること」をお尋ねします。

分析方法は、地域枠「医師」と地域枠医学生の現状を記述統計により、明らかにします。

②質的研究は、研究参加者として、愛知県下4大学地域枠医学生8名と卒業生を3名、目的抽出法にて別の機会にお願いします。その際に、改めて研究者より本文章を用いて説明し、同意書に記載していただきます。卒業生を3名とした根拠は各大学

1名ずつ、地域枠医学生を8名とした根拠は低学年（1・4年）と高学年（5,6年）を各大学から1名ずつを想定していますが、必ずしもその限りではありません。のちに、愛知県下4大学の地域枠医学生教育担当者より、メールや直接会う機会等を利用して、参加を呼びかけます。なるべく、フォーカスグループを予定していますが、同一日時に集まることが困難なことも予想されますので個別インタビューをお願いする場合があります。議論の内容をICレコーダーで録音し、言語データを収集します。

・インタビュー内容を以下に示します。

「地域枠として制約を感じることはあるか。」

「制約を感じることはあるとすれば、どのような内容か。」

「また、どのように対処しているか。」

「地域枠を離脱したいと思ったことはあるか。」

「離脱を踏みとどまった理由は何か。」

「地域枠でよかったと感じることはあるか。」

「それは、どうしてか。」

「地域枠コンソーシアム構築に対して、どのように感じるか。」

「地域枠コンソーシアムに期待することは何か。」

などです。

・インタビューは、フォーカスグループを行う予定ですが、場合によっては個別インタビューとなる可能性もあります。個別インタビューは研究参加者1名と研究者が面接をして、言語データを収集するため、研究参加者1名の多くの豊かな言語データを収集できる利点があります。しかしながら、研究参加者と研究者は多くの場合、学生あるいは卒業生と教員という権威勾配によって、収集できるデータは影響を受けやすい問題があります。フォーカスグループは、研究参加者3名から5名程度と研究者が議論をすることで言語データを収集するため、研究参加者と研究者の権威勾配の影響を最小限にすることができ、研究参加者によって相互促進的に議論が深まる利点があります。一方で、話題が散逸する傾向にあり、研究者が議論をコントロールすることが困難であるという問題や、参加者1名への詳細な聴取は困難であるという問題があります。個別インタビュー、フォーカスグループいずれであっても各回1時間程度を予定しています。議論の内容をICレコーダーで録音します。

・分析方法：データは直ちに逐語録化され、質的データ分析手法であるSCAT（Steps for Coding and Theorization）（大谷 2011.）により分析します。

- ①「データの中の注目すべき語句」を抜き出す
- ②「テキスト中の語句の言い換え」を行う
- ③「①②を説明するようなテキスト外の概念」を抽出する
- ④「（浮かび上がる）テーマ・構成概念」を記述する
- ⑤④を用いてストーリーラインを記述する

⑥理論記述

1回のインタビュー終了後データ分析を行い、それによって生じた理論記述を次のインタビュー時の質問内容に反映させる。分析の結果1回のインタビューで不十分と判断した場合、再度同じ研究参加者にインタビューを依頼することがあります。

研究参加者のデータから氏名等の個人情報进行削り、代わりに新しく符号又は番号をつけて匿名化を行います（連結可能匿名化）。匿名化はインタビュー実施後ただちにを行います。匿名化の際の連結表（研究参加者の氏名や所属等と匿名化IDの対応を記録した表）は、地域医療教育学寄附講座内の施錠可能な保管庫に保管します。この連結表は研究データと別の場所に保管し、容易に連結できないようにします。

研究期間は、実施承認日から 2022年3月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・アンケートの情報：地域枠に関する質問票、調査票の情報である医学部入学年数、性別、年齢（任意）、婚姻歴（任意）、将来の進路（希望する診療科など）、卒業生の場合は卒業年数と所属診療科、地域枠医学生・卒業生に共通する自由記載欄「「地域枠として、負担・不安・偏見・差別などを経験した、あるいは感じていること」「理想とする医師像」「「地域枠コンソーシアム」に、期待すること」
- ・インタビューデータ（質的研究参加者のみ）

4. 外部への試料・情報の提供

- ・言語データの逐語録化を外部機関に依頼することがあります。この際、委託業者には個人情報保護や機密保持に関する契約をします。また、録音データ以外の個人データ（氏名、性別、所属大学または病院、学年や臨床経験年数、連絡先）については委託業者には提供しません。
- ・共同研究機関ではデータ管理と保管はしません。また、対応表は、本学の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

- ・名古屋大学大学院医学系研究科地域医療教育学寄附講座・特任講師・末松三奈
同地域医療教育学寄附講座・特任講師・岡崎研太郎
同地域医療教育学寄附講座・特任助教・高橋徳幸

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/ecom/>

- ・名古屋大学医学部・医学生・井上理香子
- ・名古屋大学大学院医学系研究科未来社会創造機構・教授・葛谷雅文

<https://www.geriatrics-nagoya.com/blank-11>

- ・名古屋市立大学大学院医学研究科地域医療教育学・教授・大原弘隆

http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/cbme_med.dir/index.html

・藤田医科大学医学部地域医療学・教授・石原慎

https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/medicine/department/community_medicine.html

・愛知医科大学医学部地域総合診療医学寄附講座・特任教授・宮田靖志

<https://www.aichi-med-u.ac.jp/su06/su0607/su060704/08.html>

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて研究参加者の皆さんもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも研究参加者の皆さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：名古屋市昭和区鶴舞町 65 医系研究棟三号館 901

直通電話番号：052-744-2031

職名及び氏名：名古屋大学大学院医学系研究科地域医療教育学寄附講座 特任講師・末松三奈（研究責任者および研究代表者）